

## 透析機器と透析支援システム間の双方向通信統一規格 (プロトコル Ver3.0) の使用経験

衆和会 長崎腎クリニック 長崎腎病院 臨床工学課 MBtec  
○田中 健, 矢野利幸, 高木伴幸, 橋口純一郎, 原田孝司, 船越 哲,  
穴見雅士

### 【目的】

2007 年に日本透析医学会より『双方向通信統一規格 (プロトコル Ver3.0)』が公開され, 2011 年 7 月より当院で導入した複数メーカーのコンソール使用による透析支援システムの使用経験を報告する.

### 【方法】

透析機器メーカー 3 社 (東レメディカル, JMS, ニプロ) のコンソールと電子カルテを含む透析支援システム (MBtec 社製:透析 Synapse) 間の通信にプロトコル Ver3.0 を用いてシステムを構築した.

### 【結果】

通信に関連するトラブルは, 導入初期にヒューマンエラー 3 件, システムエラー 0 件, その後は, トラブルなく運用できている. コンソール側の操作で透析開始時の確認及び終了操作に各社違いが見られた.

### 【結論】

プロトコル Ver3.0 は, 透析支援システムにおいて複数メーカーのコンソールを使用可能とする. 透析装置の選定に影響しない点で有用であると考えられる.